

第 1 学年国語科学習指導案

日 時 平成 20 年 11 月 12 日 (水) 5 校時

学 級 1 学年 7 名 (男子 4 名、女子 3 名)

場 所 1 年教室

授業者 教 諭 阿部 久仁子

1 単元名 古典との出会い 「蓬莱の玉の枝—『竹取物語』から—」

2 単元について

(1) 教材観

本単元は古典学習への入り口であり、多くの中学生にとって初めて古典と向き合う単元である。「いろは歌」「竹取物語」「故事成語」から教材を設定しており、3つの教材とも、古典学習の導入で扱うのにふさわしく、身近で親しみやすい教材であると考えられる。

「蓬莱の玉の枝—『竹取物語』から—」は、「源氏物語」の中で「物語の出で来はじめの祖」と記されている通り、日本最古の物語として人々に親しまれてきた。「かぐや姫」の昔話として生徒にもなじみの深い教材である。美しいかぐや姫の成長・貴公子たちの冒険談・運命の悲しさや SF の面白さ・文章自体の美しさなどを楽しむ中で、古典学習の基礎を養い、古典に親しむ態度を育てたい。

(2) 生徒観

授業態度は落ち着いており、真面目に学習に臨んでいる。与えられた課題に対しては真剣に取り組むが、主体的に学ぶ意欲、お互いに高めあおうという意識を育てることが課題である。

古典の学習は初めての経験で、仮名遣いの違い等読みに対する抵抗もあると思う。そこで、現代文の授業以上に音読を多く取り入れ、新鮮な気持ちで学習に臨ませるとともに、古文を理解する基礎を養い、今後の古典学習に興味をもって取り組めるような学習にしていきたい。

(3) 指導観

初めての古典学習であり、抵抗なく文章に向かえるよう、視覚に訴える資料等も活用しながら授業を進めたい。また、古文を理解する基礎を養うため、繰り返し音読させ、古文のもつ独特のリズムに慣れさせたい。

本時は、物語をより深く楽しむため、家庭学習で、五人の貴公子の冒険談のうち、三人の貴公子の冒険談（口語訳）を読ませた上で授業に生かしたいと考える。（五人の貴公子のうち、一人は教材文を用いて教師が例示。一人は前時に全員で取り組む。）

3 単元の目標

(1) 「関心・意欲・態度」

- ・古典に対する興味や関心を持ち、すすんで学習活動に取り組もうとする。

(2) 「読む」

- ・物語の展開、あらすじを理解できる。
- ・文章に書かれた古人のものの見方や考え方を読み取り、自分の考えを広げることができる。

(3) 「言語についての知識・理解・技能」

- ・古典の言葉や仮名遣いを理解し、音読を繰り返す中で言葉の響きや文章の美しさを読み味わうことができる。

4 単元の指導計画（時間）

家庭学習連動のパターン 単元の指導項目と時数	A 基本的事項を定着させるための反復学習	B 教材をより深く理解するための学習	C 理解した内容を発展させた学習
いろは歌・・・・・・・・・・・・・1時間	○		
蓬萊の玉の枝-「竹取物語」から- 5時間(本時4/5)	○	○	
古典の言葉・・・・・・・・・・・・・1時間	○		
今に生きる言葉・・・・・・・・・・・・・3時間	○		○

5 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む	言語についての知識・理解・技能
・古典に対する興味や関心を持ち、すすんで古文を読もうとする。	・現代語訳をもとに、話の内容をとらえている。 ・古人のものの見方や考え方、感じ方を読み取り、それに対する自分の考えを持っている。	・古文の言葉遣いやリズム、歴史的仮名遣いを理解して、音読している。

6 本時の指導

(1) 目標

貴公子の冒険談を読み、自分の考えをまとめる中で、古文への興味を深める。

(2) 具体的評価規準

観点	具 体 の 評 価 規 準		
	A:十分満足できる	B:おおむね満足できる	C:努力を要する生徒への手立て
関心 意欲 態度	貴公子たちの冒険談や行動に関心をもち、意欲的に文章を読み、自分の考えを的確にまとめようとしている。	自分の担当した貴公子の冒険談や行動に関心をもち、文章を読み、自分なりに内容をまとめようとしている。	あやふやな語句の意味等つまずいている部分を探る。
読む こと	登場人物の言動を的確にとらえている。	登場人物の言動をおおまかにとらえている。	ヒントとなるポイント（いつ、どこで、だれが、何をしたか）を示す。

(3) 本校の研究主題に関わって

連動のパターン	A 基本的事項を定着させるための反復学習 B 教材をより深く理解するための学習
ねらい	教材で採り上げられていない部分を読むことによって、物語への興味、さらには古典への興味を深めさせたい。
具体的な方法	導入では、小テストで既習の学習内容を確認し、音読を行うことによって、基本事項の定着を図る。展開では、家庭学習で読んできた文章をもとに、登場人物の言動について紹介し合い、古典への興味を深めさせる。終末では、本時の復習・次時の予習箇所を提示する。

(4)展開

段 階	指導内容	生徒の学習活動	留意点と評価規準・手立て
導入 10分	1. 確認テスト 2. 音読 3. 学習課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元での新出漢字等を確認する。 ・「くらもちの皇子」の部分を読み、音読する。 ・本時の学習課題を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆家庭学習で基本的事項を定着させるための反復学習を行う。 ・指名読み、一斉 ◆家庭学習で読んできた文章をもとに学習することを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 貴公子たちの冒険談を読み、考えたことや感じたことをまとめよう。 </div>			
展開 35分	4. 課題解決 5. 発表 6. 感想を書く	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が担当する冒険談の内容を学習シートにまとめる。 ・同じ部分を担当した2～3人で交流する。 ・黒板に内容をまとめる。(同じ部分を担当した人で分担して) ・まとめた内容を発表する。 ・5人の貴公子の冒険談から、考えたことや感じたことを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎課題解決に向け、意欲的に学習しているか。 ◎登場人物の言動などをおおまかにとらえることができているか。 △意味がわからない言葉等つまづいている部分については説明をする。 △ヒントとなるポイント(いつ、どこで、だれが、何をしたかなど)を示す。 ・教材文ではないので、内容のおおまかな把握を第一に考える。 ・発表を聞く際は、自分の担当した貴公子との違いを考えながら聞くよう指示する。 ・根拠となる事実や理由を上げさせ、感想につなげさせる。 ・感想を書く際はポイントを与える。(自分との比較、5人の比較、現代との比較)
終末 5分	7. 本時のまとめ 8. 次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を発表しあい、本時のまとめとする。 ・次時の学習内容を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ多くの生徒に発表の機会を与え、互いに学びあえるようにする。 ◆復習ができるようワークの該当ページ、予習ができるよう教材の該当箇所を提示する。 ・「かぐや姫」が月に帰る部分を学習することを知らせる。